

〔資 料〕

2018 年度人間健康学部スポーツ健康福祉学科入学生の
入学状況に関わる実態調査

東川 安雄¹・山崎 昌廣¹・山西 正記¹・工藤 隆治¹・村上須賀子¹

武田 守弘¹・房野 真也¹・高田 康史¹・松尾 晋典¹

加地 信幸¹・河野 喬¹・森木 吾郎¹・鬼塚 純玲¹

Survey on the Admission Situation of the Department of Sports, Health and Well-being New Students of Faculty of Human Health Science in 2018

Yasuo HIGASHIKAWA, Masahiro YAMAZAKI, Masaki YAMANISHI, Ryuji KUDO,

Sugako MURAKAMI, Morihiro TAKEDA, Shinya BONO, Yasushi TAKADA,

Shinsuke MATSUO, Nobuyuki KAJI, Takashi KAWANO, Goro MORIKI, and Sumire ONITSUKA

The purpose of this research is to investigate students who entered the department of sports, health and well-being of faculty of human health science in April 2018 and to clarify the actual condition of various students' entrance examinations. As a result, increasing the number of examinees and strengthening public relations activities, etc. for recruitment of university studies have emerged as a challenge.

Keywords

Admission situation (入学状況), New Students (入学生), Survey (実態調査)

緒 言

少子化傾向の影響を受けて18歳人口が減少傾向にある現代社会において、大学における定員確保並びに入学者に対する教育の質的向上は重要な課題であり、それらに対する積極的な取り組みが求められている。それらの取り組みを検討、企画、実施していくためには、入学生に対する継続的な

実態調査が不可欠である。

以上をふまえ、本研究は、2018年4月に人間健康学部スポーツ健康福祉学科に入学した学生を対象にした調査を行い、入学生の入学試験に関わる様々な要因の実態を明らかにすることを目的とした。

¹ 広島文化学園大学 人間健康学部
(Faculty of Human Health Science, Hiroshima Bunka Gakuen University)

方 法

1. 調査対象者及び方法

調査対象者は、2018年4月に広島文化学園大学人間健康学部スポーツ健康福祉学科に入学した128名である。入学時のガイダンスにおいて調査目的、匿名性等について説明し、承諾を得たうえで調査票を用いた配票調査で実施した。

2. 調査内容

調査票は、希望するコース、卒業後の進路希望、人間健康学部スポーツ健康福祉学科を選択した理由、本学部・学科を知った情報源や進学先選択時の相談相手等、16項目で構成した。

3. データ処理

本調査によって得られたデータについては、基本的には単純集計(%)を用いるが、より詳細な分析が必要な場合はクロス集計を用いた。

結果と考察

1. 入学試験種別にみた入学状況

表1は、2018年4月入学生を入学試験種別にま

とめたものである。各入学試験種別の定員に対する受験者数の倍率は、学部全体で1.33倍であった。入学者数とその充足率は、学部全体で106.6%、「AO」が100.0%、「推薦」が133.3%、「一般」が111.1%となり、それぞれ定員を充足した。しかし、「センター利用」は44.4%と定員の5割以下となった。また、「地域特別」は受験者数・入学者数ともにゼロであった。

2. 希望するコース

本学部の場合、入学した学生は2年次から「スポーツ健康コース」と「健康福祉コース」の2コースに分かれ、それぞれの専門コース科目を履修していくことになる。今回対象とした入学生については、表2のように全体の87.5%(112名)が「スポーツ健康コース」を、12.5%(16名)が「健康福祉コース」を希望している。また、表3のように「スポーツ健康コース」を希望する者は「AO」「スポーツAO」「スポーツ特別」が多く、「健康福祉コース」を希望する者は「AO」「教育連携」「一般A」が多い。

3. 卒業後の進路希望

表4のとおり、調査対象となった新入生128名

表1 入学試験種別受験者数及び入学者数(人)

試験種別		定員	受験者数	入学者数	倍率	充足率
AO		36	24	23	1.06	100.0
スポーツAO			14	13		
推薦	地域特別	48	0	0	1.15	133.3
	教育連携指定校		9	9		
	専門学科・総合学科特別		6	6		
	公募制（A日程）		6	6		
	公募制（B日程）		5	5		
	スポーツ特別		39	38		
一般	A日程	8	23	16	1.67	111.1
	B日程		6	4		
	C日程		1	0		
センター 利用	前期	18	19	6	1.44	44.4
	中期		4	1		
	後期		3	1		
合 計		120	159	128	1.33	106.6

表2 希望するコース（人）

スポーツ健康コース	健康福祉コース	合計
112	16	128

表3 希望するコース×試験種別（人）

	AO	スポーツ AO	教育 連携	専門 学科	公募A	公募B	スポーツ 特別	一般A	一般B	センター 前期	センター 中期	センター 後期	合計
スポーツ	20	12	5	4	5	5	38	12	4	5	1	1	112
健康福祉	3	1	4	2	1	0	0	4	0	1	0	0	16

表4 卒業後の希望進路（人）

職種	教員	ソーシャル ワーカー	トレーナー・ インストラクター	公務員 (福士系)	公務員 (警察・ 消防)	一般 企業	プロ 選手	大学院 進学	留学	未定	その他
合計	61	7	32	5	10	10	9	1	0	25	0

表5 希望コース×併願した大学（ベスト5，人）

	広島経済大	広島国際大	広島修道大	福山平成大	環太平洋大
スポーツ健康	12	6	6	4	4
健康福祉	1	1	1	1	0
合計	13	7	7	5	4

のうち61名が「教員（保健体育）」を目指して入学してきている。次いで、「トレーナー・インストラクター」が32名、「公務員（警察・消防）」と「一般企業」がそれぞれ10名、「プロ選手」を目指している者が9名いる。「ソーシャルワーカー」を目指している者は7名であった。また、入学時の段階ではあるが、約2割の者が卒業後の進路については「未定」と答えている。

4. 併願した大学

表5は、本学に入学した新入生の他大学への併願状況を示したものである。128名のうち55名が他大学・専門学校(21校)を併願していた。スポーツ系の学部学科がある広島経済大、福山平成大、環太平洋大を併願したものが多。また、広島国際大を併願した者の中では理学療法士を目指していた者が多かった。

5. 人間健康学部スポーツ健康福祉学科を選択した理由

入学希望者が受験するにあたって希望する学部学科を選択する理由を8要因34変数でとらえた。具体的には、「通学等(3)」「経済(2)」「学び(5)」「環境(5)」「他者(5)」「資格取得(8)」「情報(3)」「その他(2)」である。それぞれの質問について、「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」の5段階評定で回答を得た。さらに、「非常にあてはまる」と「あてはまる」を「あてはまる」、「あてはまらない」と「まったくあてはまらない」を「あてはまらない」として集約し、平均値を算出した結果が表6である。

全体的には、「あてはまる」（平均値が3.00以上）と答えている理由としては、「学び」や「資格」に関する項目において高い値を示している。「学び」に関しては、「健康」「スポーツ」「福祉」それぞれについて学べることに對する評価が高い。「資格」については、「保健体育教員免許」「健康

表6 スポーツ健康福祉学科を選択した理由(%)

	理 由	あては まらない	どちらとも いえない	あてはまる	平均値
通学等	自宅から通学が可能だから	31.3	12.5	56.3	3.23
	交通の便が良いから	27.3	35.9	36.7	3.08
	安芸郡坂町にキャンパスがあるから	42.5	33.9	23.6	2.66
	呉市郷原町にキャンパスがあるから	48.5	39.8	11.7	2.41
経済	学費が安いから	28.1	46.1	25.8	2.93
	奨学金が充実しているから	21.1	61.7	17.2	2.90
学び	健康について学べるから	5.5	14.1	80.4	3.99
	スポーツについて学べるから	2.3	4.7	93.0	4.51
	福祉について学べるから	14.8	29.7	55.5	3.55
	部活動をがんばりたいから	12.5	27.3	60.2	3.84
	教育の質が高いから	8.6	60.2	31.2	3.27
環境	大学の雰囲気が良いから	6.3	44.5	49.2	3.55
	大学が綺麗だから	10.2	47.6	42.2	3.38
	スポーツ施設が充実しているから	1.6	23.4	75.0	4.16
	オープンキャンパスの雰囲気が良かったから	28.1	33.6	38.3	2.97
	教職員がフレンドリーだから	9.4	55.4	35.2	3.27
他者	本学にいる先輩から誘われたから	71.1	15.6	13.3	1.83
	保護者に勧められたから	42.2	28.9	28.9	2.69
	担任の先生に勧められたから	30.7	34.6	34.7	2.92
	部活の顧問に勧められたから	38.3	21.9	39.8	2.91
	友人に誘われたから	64.8	21.9	13.3	2.04
資格取得	取得できる資格が充実しているから	3.1	11.7	85.2	4.16
	保健体育の教員免許を取りたいから	17.2	16.4	66.4	3.87
	社会福祉士の資格を取りたいから	41.4	35.9	22.7	2.69
	精神保健福祉士の資格を取りたいから	48.4	39.9	11.7	2.41
	健康運動指導士の資格を取りたいから	10.9	35.2	53.9	3.59
	健康運動実践指導者の資格を取りたいから	9.4	38.3	52.4	3.56
	JATIトレーニング指導者の資格を取りたいから	15.6	39.1	45.3	3.41
	初級障がい者スポーツ指導員の資格を取りたいから	18.8	52.3	28.9	3.10
情報	キャンパス通信を読んで興味が出たから	40.6	42.2	17.2	2.58
	ホームページを見て興味が出たから	26.6	38.2	35.2	3.01
	LINEでの情報発信を見て興味が出たから	64.1	29.7	6.2	1.98
他	他の大学の受験に失敗したから	75.0	9.4	15.6	1.75
	あまり他の大学と比べずに決めた	23.4	26.6	60.0	3.42

運動指導士」「健康運動実践指導者」「JATIトレーニング指導者」の資格取得を選択理由とする者が多い傾向にある。「社会福祉士」については、健康福祉コースを希望する者が全員「あてはまる」としている。「環境」に関する項目も評価が高く、特に「スポーツ施設の充実」は高い値を示してい

る。

その他の要因についてしてみると、「通学等」については半数以上が「あてはまる」と回答している。今回の調査結果では、現在の居住形態が「自宅」とする者が103人(80.5%)と多かった。「自宅から通える」というキャンパスの立地条件が受

験する大学を選択する際に大きなウエイトを占めていると思われる。「他者」については、回答が分散する傾向にある。「経済」については「どちらともいえない」が多い。「情報」については、「ホームページ」はある程度参考にしているが、「LINE」での情報発信が選択の参考になっているとはいえない傾向にあった。「その他」の「他大学の受験に失敗したから」を理由とする者は極めて少なく、本学部を第一希望として選択した者が大部分である傾向にあることが明らかとなった。

6. 重要な他者

受験生は、さまざまな情報源をもとに必要な情報を収集して受験先を決め、受験に臨んでいるものと思われる。そこで、ここでは「本学部・学科を知った情報源」「よく使うSNS」「進路先決定時の相談相手」に焦点を当て、その実態を探ることとする。

1) 本学部・学科を知った情報源

表7のように、本学部・学科について知った情報源で最も多かったのが「本学パンフレット」である。次いで、「部活動顧問」「進路指導先生」「先輩友人」「本学ホームページ」と続く。その中でも、「スポーツ健康コース」を希望する者では「部活動顧問」「健康福祉コース」を希望する者では「本学パンフレット」や「本学ホームページ」を

情報源としている者が多かった。

2) よく使うSNS

多くのSNSがある中で、入学生がよく使うSNSは、表8のように「LINE」が圧倒的に多かった。しかし、表6で見たように、「LINE」での情報発信が本学部・学科を選択することに必ずしも繋がっているとはいえない側面があり、さらに詳細な分析が必要であると思われる。

3) 進学先選択時の相談相手

表9を見ると、本学部・学科を選択した理由として「他者による勧め」は必ずしも高くなかったが、進路先を決めていく上での相談相手としては「保護者」が圧倒的に多かった。特に、「健康福祉コース」を希望する者にその傾向が強かった。次いで、「担任先生」「部活顧問」と続き、本人にとって身近に存在する人に相談している傾向がある。

4) 入学者のオープンキャンパスへの参加状況

表10は、入学者のオープンキャンパスへの参加状況を示したものである。「教育連携」推薦入学者は全員が参加している。「スポーツAO」や「AO」で受験した者の参加率も高く、「教育連携」と同様に複数回参加している者が多い。「スポーツ特別」は参加者と非参加者が半々である。年明けにある入試で入学した者の参加率はかなり低いこと

表7 本学部・学科を知った情報源（人）

本学パンフレット	部活動顧問	進路指導先生	先輩友人	本学ホームページ	家族親類	本学オープンキャンパス	高校内説明会	進学説明会
46	41	32	29	22	17	13	8	8

表8 よく使うSNS（1番目，人）

LINE	You Tube	Twitter	Instagram	Google+
109	8	7	2	1

表9 進学先選択時の相談相手（1番目，人）

保護者	担任先生	部活顧問	進路指導先生	兄弟姉妹	その他
73	28	17	5	2	2

表10 オープンキャンパスへの参加回数

試験種別	1回	2回	3回	4回	参加なし	参加率
AO	7	4	4	3	5	78.3
スポーツAO	4	6		1	2	84.6
地域連携						—
教育連携	1	5	2	1		100.0
専門学科	2		2		2	60.0
公募A	2	2			2	66.7
公募B	1				4	20.0
スポーツ特別	16	4			18	52.6
一般A	2				14	12.5
一般B	1				3	25.0
センター前期	2				4	33.3
センター中期					1	0.0
センター後期					1	0.0
合計	38	21	8	5	56	56.3

が明らかとなった。

結 語

本研究は、2018年4月に人間健康学部スポーツ健康福祉学科に入学した学生を対象にした調査を行い、入学生の入学試験に関わる様々な要因の実態を明らかにすることを目的とするものであった。今回得られた結果をもとに、学生募集という視点から若干の検討と提言を試みる。

1. 受験者数の増加

2018年度入試では、全体で1.33倍の倍率、AOで1.06倍、推薦で1.15倍であった。安定した入学者数を確保するためには、受験者数の増加を図る必要がある。そのために、広島地区及び呉・賀茂地区の高校への働きかけ及び勧誘を強化する。また、平成30年度入試では、「地域特別推薦」の受験者がゼロであった。背景を十分に検討するとともに、制度の活用を促す必要がある。

2. 入学者数確保の目途

年明けの「一般」と「センター利用」の充足率が合わせて77.8%であることを考えると、年内に

終了する「AO」と「推薦」での受験者数を130名、合格者数を110名程度の目途とする。

3. 高校訪問及び勧誘の強化、柔軟な対応

人間健康学部の特性から、特に高校の保健体育教諭、運動部顧問を中心とした教師への挨拶・訪問や働きかけは不可欠であり、積極的に行う必要がある。スポーツと福祉では状況が異なることも考えられるので、オフィサーとの連携のもと、学部教職員を含め、それぞれが動きやすいシステムを作り柔軟に対応（挨拶・訪問や働きかけ）する必要がある。

4. 広報活動の強化

今回の調査で、大学が行っているSNS（LINEの友達）の効果はあまり見られず、大学のホームページやパンフレットを参考にしている傾向にあった。今後は、学部独自のホームページを立ち上げること、運動クラブの活躍等をタイムリーにホームページにアップロードし、高校生への情報提供やアピールが必要である。

また、福祉関係については、意識調査で大学のパンフレット等を参考に大学選択につなげている傾向があり、受験生にわかりやすい社会福祉

関係のチラシを作成し、活用することが考えられる。

5. オープンキャンパスの充実

昨年度行った内容や方法を参加者・高校生目線で検討し、充実を図る（例えば、坂駅にオープンキャンパス開催告知の幟を掲載，学生による誘導・案内等）。

6. 他大学との差別化

本学部が目指す人材像を明確にし，併願の可能性が高い他大学学部との差別化をアピールする。

7. カリキュラムについて

学部新設に当たって，授業については，同一日にキャンパス間移動が発生しないように時間割を作成している。当面は，現行の時間割等により実施し，状況を見極めながら検討する必要がある。